

第16回 熊野川懇談会 議事骨子

開催日時／場所 令和3年10月31日(日) 14:30~16:00 / WEB 開催
出席者 委員 12名(別添 熊野川懇談会委員名簿 参照)、河川管理者等 7名

紀南河川国道事務所より、熊野川河川整備計画の目標、関係住民の意見聴取方法(案)について報告し、意見交換を行った。

1. 河川整備計画の方向性について

熊野川河川整備計画の基本的な考え方や目標について、つぎのとおり確認された。

1) 熊野川河川整備計画の基本的な考え方について

- ① 気候変動の影響により頻発化・激甚化する水災害から地域を守る。
- ② 持続可能な総合的な土砂管理を実現する。
- ③ 世界遺産の川にふさわしい河川環境等を保全、継承する。
- ④ 水辺とふれあい・交流を育む空間を形成する。
- ⑤ 水理・水文や土砂移動などを調査、研究する。

2) 「洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標」について

- ① 熊野川河川整備計画の目標流量として、基準地点相賀において22,000m³/sの流量を安全に流下させる。
- ② 平成23年(2011年)9月洪水と同規模の洪水(ピーク流量:約24,000m³/s)に対しても、水位をできるだけ低下させることに努める。
- ③ あらゆる関係者が協働して人命・資産・社会経済への被害軽減を図る。

2. 関係住民の意見聴取方法(案)について

住民意見の聴取方法は、公聴会及び紙とインターネットを活用したアンケートにて実施することが確認された。

3. その他

第16回熊野川懇談会のニュースレターについては、閲覧用の設置のみとし、配布は行わないことが確認された。

以 上

◆委員からの主な意見（■委員からの意見、⇒回答）

<熊野川河川整備計画の目標について>

- 流域治水については、これから関係機関と調整しながら対策を考えていくことになるが、気候変動の影響により想定外の洪水が起こる場合もあるので、完璧に守ることは難しいがいろんな方策を進める必要がある。
- 河川整備計画の目標が $22,000\text{m}^3/\text{s}$ と示されたことについて、基本高水までに残り $2,000\text{m}^3/\text{s}$ となるが、ダム対応及び流域治水の配分の考え方は。
⇒流域治水の中に河道整備、ダムによる事前放流、森林保全、まちづくり、水田等による貯留、避難施策なども含まれているが、そのうち河川管理者が責任を持って河川整備する目標は $22,000\text{m}^3/\text{s}$ となる。
- 整備計画目標が河道で達成できない場合、利水ダムの治水運用に一步踏み込んで早く協議した方が良い。
⇒ダムの事前放流について洪水調節機能などの効果が発揮できるものは見込むが、紀伊半島大水害のような長い雨など調節しきれない洪水があるため、長いスケールで検討を進めていく
ダムの事前放流に関する治水協定を結び、ダム管理者と連携しており、引き続き効果を発揮するために、他河川では既設ダムの活用について、調査、検討するという記載にしている事例もあり、そのような書き方をすることも1案である。
- 例えば既存ダムの施設改造に向けた調査・検討など、20年間調査・検討するわけではないので、何年ぐらいを想定しているのか、時間軸を落とし込んだ表現が望ましい。
⇒河川整備計画での表現について、ダム管理者と調整してお示する。
- 流域治水の考え方は良いが、責任者と時間軸を具体的に決めていくことが大事である。
⇒河川整備計画は河川法に基づくため、河川管理者としてできることを流域治水のことも一部記載することとなる。流域治水には河川法以外の法律で実施する施策があり、別途、流域治水協議会を設置し、それぞれの施策に対して調整する仕組みができています。熊野川では、新宮川水系流域治水協議会を設置し、調整する仕組みをつくっているところである。
- 掘削土をどのように利用・ストックしているのか。洪水時に掘削土が再流出しないか心配である。
⇒持続可能性の観点で掘削土は有効活用している。避難場所としての高台整備や海岸養浜事業での活用や、砂利採取業者へ分配もしている。掘削土を地域で連携しながらサイクルを回すことが持続可能性に繋がるので、それを意識した整備計画を策定していきたいと考えている。
- 掘削土を長期的に低地で危険な宅地を高台移転するための造成に利用してはどうか。
⇒まちづくりなど高台整備をするという関係機関があれば連携して進めていきたい。
- 動植物の生息・生育に適した河床材料粒度分布の質的管理の検討だけでなく、瀬・淵の維持形成といった河床形態の管理も含めた検討を実施してほしい。
- $22,000\text{m}^3/\text{s}$ の河道計画に掘削しても、洪水時に土砂が流れ込むので掘削断面を維持できないのではないか。河道掘削だけでなく、総合的な対策を考えられないのか。
⇒ $22,000\text{m}^3/\text{s}$ の河道断面については、出水直後の再堆積も考慮しており、実現象を意識した段階的な目標として設定している。
- 河口砂州については、河道掘削を行っても、現在の河口の形態が海に出て行くときに抵抗にならないか心配である。
⇒河口砂州の管理は河道整備をする上で課題である。特に出水の時に河口が開くかどうかは、本川水位に影響が出るため、台風期・出水期前に河口砂州をフラッシュできるような管理に注視していく必要がある。
- 洪水調節施設等による調節流量 $1,000\text{m}^3/\text{s}$ の確保は、穴あきダムを考える可能性はないのか。
⇒穴あきダムなどの構造の話も含めて、今後ダム管理者と議論していきたい。
- 総合土砂管理の観点で、河口域の砂を王子ヶ浜や七里御浜の侵食対策に役立てることが良い。
- 地形変化のモニタリング強化に加えて、流下能力の将来変化に役立つPDCAサイクルの確立は重要である。
- 和歌山県として洪水調節は、直轄区間のみならず上流の区間にも効果があり、非常に重要な施策のため、河川整備計画期間内での実現・目標に位置づけてもらいたい。

- 河川整備の目標である22,000m³/sも可能な限りスピードアップを図るため、手法の検討などに、積極的に取り組んで欲しい。

<関係住民の意見聴取方法（案）について>

- 河川法上、意見聴取の対象とする関係住民の定義はあるのか。公聴会の対象は流域3県だが、ホームページでのアンケートの対象は条件なしとなっている。
⇒関係住民の定義について、特に規定はない。意見に対して審査を行い、意見として採用するか判断する。
- 法人や団体が意見しても関係住民という扱いになるのか。
⇒状況や意見内容によって、個別の対応となる。今回の意見を踏まえ、次回懇談会で意見聴取方法を確認していただきたい。

以 上

資料1 熊野川懇談会委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	専門分野	所属	備考
井伊 博行 い い ひろゆき	水循環、水質	和歌山大学 システム工学部 教授	
泉 諸人 いずみ もろと	歴史・文化、 観光、林業	浦島観光ホテル株式会社 取締役 浦木林業株式会社 代表取締役	
加治佐 隆光 かじさ たかみつ	水資源工学	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授	
岸上 光克 きしがみ みつよし	農業経済、 地域政策	和歌山大学 食農総合研究教育センター 教授	
清岡 幸子 きよおか ゆきこ	地域の特性に詳しい (新宮市)	元新宮商工会議所女性会 会長	
高須 英樹 たかす ひでき	植物、生態系	和歌山大学 名誉教授 和歌山県立自然博物館 館長	
瀧野 秀二 たきの しゅうじ	水生生物、植物	熊野自然保護連絡協議会 会長 熊野川 河川水辺の国勢調査アドバイザー	委員長代理
立川 康人 たちかわ やすと	水工学 水文・水資源学	京都大学大学院 工学研究科 教授	
中島 千登世 なかしま ちんとせ	地域の特性に詳しい (新宮市)	河川を美しくする会 副会長	
早坂 豊司 はやさか とよし	広報・報道	株式会社テレビ和歌山 報道制作本部長	
藤田 正治 ふじた まさはる	河川・砂防、 森林工学	京都大学 防災研究所 教授	委員長
松尾 直規 まつお なおき	河川水質	中部大学 名誉教授	
森 信人 もり のぶひと	海岸防災工学	京都大学 防災研究所 教授	
山本 殖生 やまもと しげお	熊野の歴史・文化 ・信仰	国際熊野学会 代表委員 熊野三山協議会 幹事	
横田 浩 よこた ひろし	発電水力、 水源地域対策	エネルギー戦略研究所株式会社 取締役	